

# 研究全体構想図

**学校の教育目標**  
「見つめ 考え 創り出す」

**【これまでの教育成果と課題】**

- ・生徒自らが強い課題意識をもち、追究(追求)する姿が増え、見通しをもって取り組めるようになってきた。
- ・目的を明確にして交流活動を通して、考えが深まったと実感する生徒が増えた。一方で、考える視点(見方・考え方)を教師と生徒との共通された視点ととらえきれていないこともある。
- ・学習課題とつなげて振り返ったり、仲間の考えやよさを再認識したりする生徒が増えてきた。一方で、学びのよさを実感させるための教師評価に弱さがある。

**【目指す生徒の姿】**

- ・自らが、驚きや疑問をもち、
- ・身に付けた見方や考え方などを用いて、
- ・自分の考えや表現を深め、
- ・納得するまで追究(追求)し、喜びや達成感を感じることができる生徒

**《研究主題》**                      学びを深めることができる生徒の育成  
～考える視点(見方・考え方)を軸とした授業展開を通して～

**本校における「考える視点」の定義**

- ・自分の考えや表現を見つめ、学びを深めるために必要な教科の見方・考え方
- ・生徒と教師が共有できるもの

研究内容 1 考える視点(見方・考え方)を位置付けた学習過程の工夫	研究内容 2 考える視点(見方・考え方)を活用し、自分の考えや表現のよさや確かさを自覚し、深めるための指導・援助、評価の工夫
<p><b>1 生徒の実態把握</b> (1) 個の実態や学習状況に応じた指導・援助の工夫</p> <p><b>2 深い学びを支える考える視点(見方・考え方)の整理</b></p>	<p><b>1 「問い」を生み出し、強い課題意識がもてる課題化の在り方</b> (1) 課題設定の工夫 (2) 課題提示の工夫 (3) 見通しのもたせ方の工夫</p> <p><b>2 考える視点(見方・考え方)を活用し、自分の考えや表現を深めるための交流活動の在り方</b> (1) 自分の考えをもつ場の設定 (2) 学びを深める交流活動の工夫</p> <p><b>3 自分の学びのよさを実感し、次時への見通しがもてる評価の在り方</b> (1) 学習課題とつなげて振り返り、次時への見通しがもてる自己評価の工夫 (2) 仲間から自分の学びのよさを再認識できる相互評価の工夫 (3) 学びのよさに気付かせ、顕在化する教師評価の工夫</p>